

服薬ケア研究会 第61回例会

ご自宅からの
web参加も可能です

日時：平成30年4月29日（日）

【第1部】10:00～12:00 特別講演「服薬指導の組み立て方」

講師：服薬ケア研究会会頭 岡村 祐聡 先生

【第2部】13:00～16:00 「頭の中をPOSにする！」ワーク特別編（症例#25）

チューター：服薬ケア研究会会頭 岡村 祐聡 先生

場所：サンパール荒川 4階 第2集会室

〒116-0002 東京都荒川区荒川 1-1-1 Tel. 03-3806-6531

JR常磐線 三河島駅 下車 徒歩約10分

参加費：一般会員…3,500円、非会員…5,000円、学生…2,000円

参加人数：ワーク席…10名、オブザーバー席…40名

先着順（入金をもって正式に受付とします）

web配信あり ※研究会HP内「web参加について」をよくお読み下さい



***** あなたの服薬指導をレベルアップ！！ *****

あなたは、「服薬指導の組み立て方」を学んだことがありますか？ 薬学的な知識はもちろん必要ですが、良い服薬指導は、薬学的な知識があるだけではできません。服薬指導を組み立てる方法論を身に付ける必要があります。このワークは、まさにそのために考案された薬剤師としての実力を総合的に高める演習です。

このワークで得られる効果は3つ。その1「何を聞くべきか判断できる」：服薬指導は質問が命！なぜその質問をするのか、その結果何がわかり、どのような選択肢が考えられるのかを明確にすることで、短時間で的確な服薬指導が可能になります。「聞く事が無い」は本来有り得ないのです。その2「プロブレムの本質を捉える」：人は理屈や情報ではなく、感情によって行動するため、プロブレムを解決するには本質（感情）への着目が鍵になります。その3「薬歴を書く時間が短縮する」：この方法では、指導が終わった時には薬歴に書く内容が既に出て上がっているため、薬歴が書けないという悩みがなくなります。さあ、次はあなたが身に付ける番です！

参加申込みは以下の必要事項を記入の上、メール:jimukyoku@fukuyaku.net または FAX:03-6368-6058 へお送りください。折り返し入金方法等をお送りしますので、返信先（メールアドレス または FAX）を必ずお書き下さい。メールはjimukyoku@fukuyaku.net からお送りしますので受信設定をお願いします。3日経過しても連絡がない場合はお手数ですが、ご連絡下さい。※ezwebメールは仕様によりメールが届かないようです。他のアドレスをご使用ください。

↓希望する方に○をして下さい。未記入はこちらで割振ります

----- 第61回例会（4/29 東京）参加申込記載事項（本会場）

ワーク席・オブザーバー席 -----

ふりがな
氏名： _____

メールアドレス： _____

（自宅・勤務先） ←該当する方に○をして下さい。

住所：〒 _____

（自宅・勤務先） ←該当する方に○をして下さい。

（自宅・勤務先） ←該当する方に○をして下さい。

電話： _____

FAX： _____

勤務先： _____

職種：薬局薬剤師・病院薬剤師・その他（ _____ ）

服薬ケア研究会の会員ですか？： はい・いいえ _____

同時入会を希望しますか？： はい・いいえ _____

※同時入会されますと、参加費が会員料金になります（入会金 2,000円、年会費 5,000円）

頭の中を POS にする！（特別編）とはどんなワーク？

**すべての薬剤師に必ず学んでいただきたい
大変学習効果の高い演習です！**



この「頭の中を POS にする！」（特別編）は、岡村先生のご著書「薬局薬剤師の患者対応」（p78～83）、「患者対応技術の実践法」（p32）などに紹介されているワークで、**薬剤師の実力をつけるための総合演習として最適なワーク**です。このワークに 20 回から 30 回参加すれば、薬剤師として一流の思考力と患者対応力を身につけることができます。現在現役で活躍するすべての薬剤師の方にご参加いただきたい**演習であると考えています**。また、6 年制の薬学生実務実習の中で、各薬局においてこのような演習を実施し指導出来れば、すばらしい実務実習となることでしょう。現在、服薬ケア研究会がこのワークの研修会を全国各地で開催しておりますが、用いる症例は毎回新たに作っておりますので、同じものは一つもありませんので、何度参加されても勉強になります。今回は前例会と同じ症例（同じ患者さん）で行いますが、「前回（前例会で指導した来局日）から次の来局日」を指導していただきますので、初参加の方はもちろん、前回参加された方も新鮮な気持ちで取り組むことができます。

ワークの内容は、模擬症例を用いて患者役の方と実際に対応をしながら、「どのように対応するのが良いのか」を学んでいきます。実際には 3～5 分程度で終わってしまう患者さんとのやり取りを、3 時間以上かけてじっくりとディスカッションしながら、組み立てていくのです。特にこの「特別編」では、岡村先生が直接チューターを務めてくださいますので、「**服薬ケアステップ**」（患者対応を効果的に進めていくための方法論）の実践応用例として、まさに実践しながらに「どのように考えれば良いのか」を学ぶことができます。

このとき、5～10 名の**ワーク席の参加者**は対応する薬剤師役となり、チューターとやり取りしながら問題を探し、**最適なケアを考察して**いきます。ワーク席の参加者は、自ら意見を述べたり、チューターより発言を求められたりします。したがって、自分自身で実際に症例に取り組み、最適なケアを組み立てる思考訓練を行いたい場合には、ワーク席をご希望下さい。

オブザーバー席の参加者は、基本的にはワーク席の参加者がケアを組み立てていく様子を周りで見学する形になります。チューターから指名され、発言を求められることはありません。講師はチューターをやりながら適宜必要な解説をはさんでいきますので、患者さんとのやり取りや講師の解説を聞きながら、落ち着いて「どのように考えれば良いのか」を学ぶことができます。そのため、指されることにより緊張することなく、しっかりとその考え方を学ぶことができます。さらにオブザーバー席の方は、チューターより指されることはありませんが、**自分で意見を述べたいときには挙手して意見を述べる**ことができます。したがって、ワークの流れに自分の意志で参加することは可能ですので、ただ単に「見ているだけ」ではありません。そういう意味で、**ワーク席での参加よりも、オブザーバー席で参加した方がむしろ勉強になる方もいる**でしょう。

ワーク席の参加者は、ディスカッションに直接参加しながら、交代で実際の患者対応も行います。患者対応の組み立てだけでなく、**コミュニケーション技法**を用いて、患者さんとのやり取りをその場で行いますので、「服薬ケアステップ」の考え方と、「服薬ケアコミュニケーション」の実践練習を同時に行うことができます。

このように、**ワーク席、オブザーバー席、どちらの参加でも、とても勉強になります。**

患者役も参加者の中から、希望者（会員限定）にやっていただきます。実は患者役が一番勉強になると言われており、希望者も大変多いため、会員の中から事前に希望者を募っております。1 回以上この「頭の中を POS にするワーク」に参加したことがある会員の方は、患者役での参加も可能ですので、事前に事務局まで予約申込をください。

なお、参加される場合、必ず自分が使い慣れた薬や病気に関する参考書などを持参してください。このワークは考え方を学ぶワークですので、知識があやふやでは思考を組み立てることができません。特にワーク席参加の方は、忘れずにお持ち下さい。もちろん、オブザーバー席での参加の方もお手元で調べながら学んだ方が良いと思います。（主催者側では特に添付文書などは用意しませんので、必ずご自身でご持参下さい。）